佐渡米通信

こめ～る

2018年 09月号

発行日:平成30年9月28日
編集人；佐渡農業協同組合 営農事業部米穀販売課 山田・藤巻
beikokuka.hanbai@ja-sado-niigata.or.jp

30年産米の検査状況

9月12日に、30年産米の初検査が行われました。こしいぶき762袋・五百万石315袋と五百万石のフレコン11本を検査し、1等米比率は85.2%でした。検査員から「本年は猛暑だったため、稲の生育にとっては厳しい気象条件となりました。しかし、生産者の徹底した水管理によって、綺麗なお米に仕上がっていました。今後、刈遅れに注意するとともに、適正な乾燥と流量による丁寧な乾燥調整を心掛けていただきたい」と講評がされました。

※1等米比率（9月20日現在）:コシヒカリ:89.7%、こしいぶき:84.3%

水管理指導会が行われました

▲暑い中でも、美味しいお米の為に指導会に集まってくれた生産者

8月1日から9日の間、島内100カ所の佐渡米未来プロジェクトの展示圃で水管理指導会が行われました。指導会では玄米の大きさが出穂して4週間で決まるため水管理を徹底することや、米の格落ちの原因となる乳心白や胴割粒が発生しないように、間断かん水を実施するように指導が行われました。

刈取指導会が行われました

▲4日に行われた指導会では、台風が近づいているにも関わらず、集まってくれた生産者の様子

9月4日から11日の間、島内100カ所の佐渡米未来プロジェクトの展示圃で稲の刈り取り指導会が行われました。指導会では、刈り取り時期の確認や乾燥する時の注意点、異物混入の注意や次年度に向けた土づくりについて指導が行われました。JAの指導員より「特に、今年は猛暑だったため丁寧に乾燥しなければ、胴割粒の発生が懸念されます。その為、今まで以上に丁寧な乾燥調整を行いましょう」と説明がありました。

カントリーエレベーターの受入が始まりました

8月27日から、生産者が籾のままの状態でのカントリーエレベーターへの受入が始まりました。この施設は米を籾のまま貯蔵するところで、主にコシヒカリやこしいぶきの受入をしています。カントリーエレベーターへの受入は10月5日までを予定しています。

▲カントリーに米を投入している様子

床にある投入口にコンテナをひっくり返して入れています。勢い良く落ちていく様子は圧巻です。

草刈りツアーが開催されました

8月18日に、コープにいがたの組合員親子ら40名と島内参加者30名を合わせた70名で、田んぼアート圃場の草取りや江掘り体験、生きもの調査を行いました。草取りを体験した方からは「農薬を減らした米づくりを行うことは草取りとの闘い、ヒエ等の草をとるには力がとても必要で、草取りの大変さを感じた。」と感想がありました。

◀一生懸命にトキの餌場「江」の設置作業をする子どもたち

JA佐渡の公式 Facebook「佐渡のたんぼにっき」で佐渡の情報が見られます。https://www.facebook.com/jasadotanbo　QRコードについてはこちら▶

JA佐渡HPやフェイスブック・ツイッター・g+でも佐渡の情報が見られます